

点検・評価シート（1）

大和市学校教育基本計画

◆ 評価の基準について ◆

○基本目標の「総合評価」

A評価	基本目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	基本目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	基本目標が実現に向けて、期待された結果が表れていない。

○施策の方向の「達成度」

A評価	施策の進捗状況が、26年度に期待された結果を上回っている。
B評価	施策の進捗状況が、26年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	施策の進捗状況が、26年度に期待された結果を下回っている。

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

子どもたちが、これからの社会の中で、心豊かにたくましく生きる人間に育っていくことができるよう、一人一人を大切に教育を進めます。

それとともに、生きてはたらく知恵を身につけ、他者と相互理解する中で、さまざまな問題に対応していく力を育成するため、“確かな学力”を身につける取り組みを推進します。

■実施計画掲載事業と平成 26 年度の実績

▼施策の方向1—1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

自分の力を発揮し、他者に認められた経験によって、自己肯定感が高まり、夢や目標に向かうことができます。また、他者の個性を尊重し合い、互いを認め合うことにより、集団の一員である意識もはぐくまれます。一人一人を大切にされた取り組みに努めます。

不登校で苦しむ児童・生徒に対しては、登校支援を始めとする早期対応を、いじめに苦しむ児童・生徒に対しては、心のケアなどを関係機関と連携する中で推進するとともに、学校全体でその未然防止に取り組めます。

障がいがある児童・生徒に対しては、個別の支援計画の作成や特別支援教育ヘルパーを配置することで、ハード、ソフト両面でのバリアフリーを図ります。児童・生徒が、障がいの有無や立場の違いを超えて共に理解し合い、学び合える環境を目指します。

(1)学用品等就学援助

[担当] 学校教育課

[事業内容] 学校教育法の規定に基づき、経済的理由により就学が困難な家庭の負担を軽減するため、給食費や学用品費を援助しました。

※給付者数は、経済状況によって大きく増減します。経済状況を注視し、効率的な援助に努めます。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
受給者数 (小学校)	計画:3,362 人 実績:3,238 人	計画:3,367 人 実績:3,205 人	計画:3,395 人 実績:3,140 人
受給者数 (中学校)	計画:1,714 人 実績:1,709 人	計画:1,689 人 実績:1,691 人	計画:1,631 人 実績:1,639 人

(2)不登校・いじめ対策

[担当] 指導室

[事業内容] 小学校へ入学した児童の保護者や初任の教職員を対象に、いじめ問題を周知啓発するリーフレットを配布したほか、不登校をテーマとしてフォーラムを開催しました。

全小・中学校で、いじめに関する無記名アンケートを実施したほか、平成25年度から集団アセスメントを実施して学級経営への活用を図ってきました。教職員に対しては、共通認識を持って児童・生徒を理解し問題解決を図るため、学校に出向き校内研修等で指導・助言をしました。



不登校を考えるフォーラム
講師：青少年相談室特別相談員・山下英三郎氏

[計画と実績]

	H24	H25	H26
リーフレットの配布 (新1年生分)	計画:2,000枚 実績:1,900枚	計画:2,000枚 実績:2,100枚	計画:2,000枚 実績:5,000枚
フォーラムの開催	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回
児童・生徒指導研修会 (訪問)	計画:小10回 実績:小中12回	計画:小9回 実績:小中6回	計画:中9回 実績:中8回 :小3回

(3)外国人児童・生徒教育支援

[担当] 指導室

[事業内容] 外国人児童・生徒の学校生活や学習の支援のため、小・中学校に日本語指導員(7名)や外国人児童・生徒教育相談員(17名)を派遣しました。また、就学前児童が学校生活にスムーズに入れるよう、相談員等を派遣しました。

このほか、(公財)大和市国際化協会の協力により、ボランティアの指導員を派遣しました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
日本語指導員派遣回数	計画:418回 実績:406回	計画:418回 実績:394回	計画:418回 実績:389回
外国人児童・生徒教育 相談員派遣回数	計画:473回 実績:306回	計画:473回 実績:439回	計画:473回 実績:490回
就学前指導 (プレスクール)	計画:50回 実績:50回	計画:50回 実績:49回	計画:50回 実績:49回

(4)不登校対策**[担当] 青少年相談室**

[事業内容] 学校復帰を目的として、教育支援教室(まほろば教室)を開設し、学科学習(1日4時間)のほか、カウンセリングや集団活動などを行いました。また、「進級・進学時連携支援シート」の活用を呼びかけるなど、不登校の未然防止・早期対応に取り組みました。



「まほろば教室」通室生の作品(ペーパーケース)

平成24年度末をもって廃止した学校教育相談員に代わり、小学校には週1回相談室の相談員を派遣し、面接相談・児童観察・家庭訪問を行いました。

青少年相談室にはスクールソーシャルワーカーや心理カウンセラーを配置しており、福祉や心理面でより高い専門性を必要とする相談に対応しています。平成26年度からスクールソーシャルワーカーを3名に増員し、相談体制を充実させたほか、家庭や学校との連携を見直し・強化し、不登校児童・生徒に寄り添った支援を行いました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
まほろば教室通室人数(年度末登録者数)	計画: 30人 実績: 34人	計画: 30人 実績: 33人	計画: 30人 実績: 42人
『進級・進学時連携支援シート』の導入・活用	計画: 導入 実績: 全28校	計画: 活用 実績: 活用	計画: 活用 実績: 活用

(5)不登校生徒支援員配置**[担当] 青少年相談室**

[事業内容] 各学校での不登校に対する取り組みを活性化させるため、中学校2校に配置してきた不登校生徒支援員を拡充し、平成25年度から市内全中学校(9名)に配置しました。

支援員が別室登校による学習支援や家庭訪問などの活動を行うことで、不登校の未然防止や生徒の登校支援に取り組みました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
不登校生徒支援員配置校数	計画: 2校 実績: 2校	計画: 3校 実績: 9校	計画: 4校 実績: 9校

(6)電子黒板整備(特別支援教室)**[担当] 指導室**

[事業内容] 特別支援学級在籍児童・生徒の学習や指導を行うにあたり、視覚支援として効果的な電子黒板を、全小・中学校の特別支援教室にも設置し、その活用について研修を行いました。

※通常の学級(普通教室)については、平成22年度に小学校全校に整備済み。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
電子黒板の設置	計画: 28校 実績: 28校	計画: 活用 実績: 活用	計画: 活用 実績: 活用

(7)特別支援教育ヘルパー配置**[担当] 指導室**

[事業内容] 障がいがある児童・生徒を一人一人の教育的ニーズに応じてきめ細かく支援するため、特別支援教育ヘルパーを前年度より5名増員し、75名配置しました。配置人数については、支援を必要とする指数を算出し、その充足率100%を目指し、段階的に必要な人員を配置します。

(平成26年度の充足率は93.75%)

[計画と実績]

	H24	H25	H26
ヘルパー配置人数	計画: 65人 実績: 65人	計画: 70人 実績: 70人	計画: 70人 実績: 75人

(8) 学校教育相談員配置**[担当] 青少年相談室****[事業内容]**

児童・生徒が不安や悩みを気軽に話し、心のゆとりを持てる環境をつくるため、小学校に「子どもと親の相談員」、中学校に「心の教室相談員」を配置し、児童・生徒、保護者、教職員からの相談に対応してきました。しかし、相談員の待遇面などから、専門性の高い有資格者の相談員を確保することが困難であったこと、また相談員の定着率に課題があったことなどから、本制度については平成 24 年度末をもって廃止しました。

平成 25 年度からは、本制度に代わり小学校には青少年相談室相談員を派遣し、中学校には県費スクールカウンセラーの派遣日数を増やすとともに、不登校生徒支援員を全校に配置することで、相談員の専門性や継続性を確保しながら、不登校対策の拡充を図りました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
相談員の配置日数 (小学校)	計画:週 1 日 実績:週 1 日	廃止	
相談員の配置日数 (中学校)	計画:週 2 日 実績:週 2 日	廃止	
学校教育相談員対象 研修	計画:3 回 実績:3 回	廃止	

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・教育委員会が作成した就学援助のお知らせを全校児童・生徒に配布し、制度の周知に努めています。
- ・一人一人を大切にすきめ細かな指導や日常の教育相談活動に努め、不登校生徒支援員等を活用して不登校の早期発見やいじめ問題の未然防止に向けて取り組んでいます。
- ・担任と支援教育部や児童指導部・養護教諭などが組織的な連携を図り、情報を共有するとともに、必要に応じて相談員・SA 等と連携したり、関係機関(家庭こども相談担当、生活援護課、児童相談所、養護学校)と協力したりして支援を行いました。
- ・児童へのアンケートを年二回実施するなど実態把握に努めるとともに、その追跡調査を行い、問題が確認される場合は、関係職員で解決までのプロセスを確認しました。
- ・教育相談活動を充実させ、生徒の悩みに寄り添い、友人関係の把握やトラブルの未然防止に努めました。
- ・集団アセスメントテストの結果を活用し、生徒・学級の状況把握と課題解決のための取り組みを行いました。
- ・自己存在感を高める手法の一つとして、生徒がお互いの良いところを書いたカードを日常的にポストに入れ、それを、教員が生徒に紹介したり、励ましの材料にしたりしました。
- ・良い行動を奨励し、それを認め合う雰囲気を作るとともに、個々の生徒に対して、居場所のある学校づくりに取り組みました。
- ・児童会の取り組みとして「いじめ防止標語」や学校全体で「いじめ防止ポスター」の積極的な作成を促し、いじめに対して、考える機会としました。
- ・命の大切さについて一人ひとりが考え、いじめがその大切な命を奪ってしまうこともあり、いじめはぜったいにいけないということや、お互いの気持ちを尊重しあうことなどを歌や劇で表現し伝え合いました。
- ・国際教室では、個々の児童にあった教材を選択し、外国籍児童への取出し授業や日本語指導員との取出し授業を実施するとともに、在籍学級での T・T 指導などを実施しました。また、NPO とも連携しながら、日本語の指導に取り組みました。
- ・国際学級の担当が中心となり、外国につながる児童生徒に日本の風習を理解させたり、全校児童生徒に諸外国の言語・習慣・遊びなどの文化を紹介したりしました。
- ・特別支援学級に在籍している児童生徒にとっては、視覚支援が有効なことから、電子黒板を活用した学習を取り入れ、より分かる授業を実施しています。
- ・特別支援学級に在籍している児童生徒に対して、ヘルパーによる基本的生活の介助、学習活動、教室間移動等における介助、安全確認、運動会・キャンプ・修学旅行等の引率などを行いました。

▼施策の方向1—2 “確かな学力”を身につける教育を進めます

学習内容に即した教材の導入を図るとともに、学習環境の整備を進めます。また、「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を体感できる学習を通し、学習意欲の向上と学習習慣の定着をめざします。

また、情報モラル教育や環境教育など、変化する現代社会において不可欠な「時代に即した教育」を、様々な教科等を通して進めます。

併せて、学習時間の弾力化や学級を超えた学習集団の弾力的編制など、実情に応じた効果的学習を進めていきます。また、授業の構成や進め方を工夫することに加え、体験活動、問題解決型学習などの充実により、“生きる力”をはぐくむ豊かな学びを進めます。

(1)少人数指導等非常勤講師配置		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	<p>小学校については、1学級の児童数が35人以上の第3学年に、中学校については、1学級の生徒数が35人以上の第1学年を対象として非常勤講師を配置することで、きめ細やかな指導を行い、順調な学校生活が送れるように支援します。</p> <p>小学校第1・第2学年が35人学級となったことから、平成25年度から小学校の配置数を5校から3校に見直しました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	講師配置校数 (小・中学校合計)	計画:10校 実績:10校	計画:10校 実績:6校	計画:10校 実績:8校

(2)小・中学校教材等整備		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>小・中学校の教育活動に必要な教材を学校の要望に基づき整備しました。また、適正な教材選定等を検討するため、教材教具研究協議会を開催しました。</p> <p>教材教具研究協議会において取り決めた“児童・生徒数に応じた必要な備品数”などを基準とし、学校要望に応じた教材備品を配布します。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	(学校からの要望に基づき)教材の配布	計画:配布 実績:配布	計画:配布 実績:配布	計画:配布 実績:配布

(3)指導図書等整備		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>教科指導を効果的に行う環境を整えるため、教員に教科書、準教科書(道徳、体育、進路※中学校のみ)、指導書(道徳、体育)及び指導用教材を配布しました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	指導用配布教科書の 種目数(小学校)	計画:11種目 実績:11種目	計画:11種目 実績:11種類	計画:11種目 実績:11種目
	指導用配布教科書の 種目数(中学校)	計画:15種目 実績:15種目	計画:15種目 実績:15種類	計画:15種目 実績:15種目

(4) 読書活動の推進**[担当] 指導室**

[事業内容] 子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、第3回大和市子ども読書フォーラムを開催したほか、大和市子ども読書感想文コンクールを実施し、優秀作品を文集「こすもす」に掲載しました。



第3回大和市子ども読書フォーラム

朝読書などの読書活動を各小・中学校で進め、本に親しむ時間を確保するとともに、教科等の年間カリキュラムの中に図書館利用の時間を位置付けるなど、学校における読書活動の推進を図りました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
フォーラムの開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回
大和市子ども読書感想文コンクールの実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:実施

(5) 英語教育の推進**[担当] 指導室**

[事業内容] 児童・生徒がコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力を育成するために、中学校に英語指導助手3名、小学校に外国語活動指導助手7名を派遣しました。また、教職員・英語指導助手・外国語活動指導助手対象の研修会で、指導方法などを周知したほか、教科担当・担任との打ち合わせの時間を確保し、授業内容を充実させました。

(1 学級あたりの時数)

[計画と実績]

	H24	H25	H26
英語指導助手の派遣時数	計画:8~12時間 実績:9時間	計画:8~12時間 実績:9時間	計画:8~12時間 実績:9時間
外国語活動指導助手の派遣時数(5・6年生)	計画:35時間 実績:34.5時間	計画:35時間 実績:34.8時間	計画:35時間 実績:35時間
外国語活動指導助手の派遣時数(1~4年生)	計画:2~5時間 実績:2.4時間	計画:2~5時間 実績:2.6時間	計画:2~5時間 実績:5時間

(6)情報教育の推進**[担当] 教育研究所****[事業内容]**

ICT機器を活用する授業の実践に関する研修講座と調査研究を実施しました。

情報教育推進校において、学校単位で2年間の実践研究を行い、教育成果を発表会、紀要として公開しました。2種類のタブレット型コンピュータを全校に整備し、機器操作や授業活用についての研修を行いました。

情報モラル教育支援を専門業者に委託し、実態調査分析、結果報告、授業支援、ネットトラブル対応等を行いました。

情報教育計画策定のための情報教育プロジェクト委員会を2回(前年度2回)開催しました。

※情報セキュリティに関する研修講座は、役職ごとの研修を合同で実施することとしたため回数が減少しています。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
情報モラルに関する調査研究	計画:調査研究 実績:9回	計画:研究成果の普及・実践 実績:紀要を配布	計画:研究成果の普及・実践 実績:紀要を配布
情報教育に関する調査研究		計画:調査研究 実績:11回	計画:調査研究 実績:11回
情報セキュリティに関する研修回数(講座)	計画:5回 実績:3回	計画:3回 実績:1回	計画:3回 実績:1回
情報セキュリティに関する研修回数(訪問)	計画:小19回 実績:小19回	計画:中9回 実績:中9回	計画:小10回 実績:小9回

(7)理科教育・環境教育の推進**[担当] 教育研究所****[事業内容]**

教職員や市民を対象とした、理科教育・環境教育に関する、実験・体験を中心とした研修事業を3回開催し、学校の要請に応じて、理科訪問研修を行いました。

- ・「小学校理科の観察・実験の基礎」
- ・「動物目線で見てみよう
～海洋生物の新発見～」
- ・「引地台公園で自然観察～副読本『大和の自然』を手にとって～」
- ・理科訪問研修:訪問校数4校
児童・生徒を対象にした子ども科学教室等を開催しました。(カッコ内は前年度)
- ・子ども科学教室:開催回数5回(5回)
参加人数138人(123人)
- ・やまも おもしろ科学館 :開催回数 2回(2回) 参加者数1,258人(1,275人)



「子ども科学教室」の様子

[計画と実績]

	H24	H25	H26
小学校理科副読本改訂版の発刊	計画:5,000冊 (新3・4年生) 実績:5,200冊	計画:2,300冊 (新3年生) 実績:2,300冊	計画:2,300冊 (新3年生) 実績:2,300冊
小学校理科副読本指導資料集発刊		計画:2,000冊 実績:1,100冊	計画:400冊 実績:400冊

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- 研修などを通じて、職責に応じた情報セキュリティに関する知識を学ぶなどして学校全体のセキュリティに生かしています。
- 「大和市立小中学校における教育ネットワークシステム利用要領」及び「大和市立小中学校における教育ネットワークシステム管理運用マニュアル」に則り機器の運用を行っています。
- 校内のセキュリティについて、各教職員が常に確認できるよう、注意事項の掲示方法を工夫しています。
- 保護者も参加できる研修の体制を作るなど、学校と家庭が連携して情報モラルや情報セキュリティの研修を行い、その効果を高めています。
- 校内研のテーマを生かしつつ授業研究を進めながら、並行して個をきめ細やかに見取るために、観点別評価に関する確認を行いました。
- 学習支援の必要な児童については、SA や国際教室担任・日本語指導員等・学習支援ボランティアによる取出し授業で個別指導を実施しました。
- 教科の指導計画についての確認・電子黒板を活用した授業の工夫を行うとともに、校内研究において「思考力・表現力」を高めるために「かく」活動に重点をおき「チャレンジ・Myノート」とし、わかりやすいノート作成を児童の努力目標として授業研究を進めました。
- プロセス重視の指導案による研究授業を全員の教員が行うことや、その授業を参観した感想を付箋紙に記入し職員室内に掲示して授業改善に役立てている。
- 言語活動の充実や表現力・思考力をつけさせるために、ペア学習やグループ学習の学習形態を積極的に取り入れました。
- 個々の生徒の状況に応じて、授業への入り込みや取り出し、放課後の学習会を実施しました。また、長期休業やテスト前などに各学年で補充学習を実施しました。
- 読書活動を重点目標に設定し、朝読書や読み聞かせ等の取り組みを実施するとともに、春・秋の読書週間の実施やたくさん読んだ児童の表彰などを行いました。また、ブックトレイン・ビンゴなど、意欲を喚起する読書活動の取り組みを実施しました。
- 朝読書、昼読書、ボランティアの方による読み聞かせ、図書委員会による読み聞かせ、図書館司書による読み聞かせ、放課後子ども教室の図書館の開放、朝の図書館の開放を行いました。
- 掲示などに気を配り、学校図書館の環境を整え、活用しやすい学校図書館を目指して取り組みました。
- 司書と担任・教科担任が連携を取りながら学習に関する本を教室の前や図書室に展示するなど、タイムリーな本の紹介を実施しました。
- 家読の期間を設け、親子で本に親しむ取り組みを行うとともに、保護者へも本を貸し出しました。
- 国語科において「読書指導年間計画」を作成するとともに、週3回の読書活動の時間を設定しました。
- 学校図書館の授業での利活用を促進するため、学校図書館スーパーバイザーの指導助言のもと、書架や机の配置を見直すとともに、蔵書の分類を整理しました。

▼施策の方向1—3 体験活動を充実します

異年齢の人との交流、スポーツ活動、自然体験活動、集団宿泊体験、ボランティア活動など、社会活動や体験活動の充実を図ります。その結果、児童・生徒の自己有用感をはぐくみ、人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成します。

また、生き方を考える教育を通して、児童・生徒の自己実現を促します。特に中学校を中心とした職場体験活動の充実を図ります。

(1)中学校部活動支援		[担当] 指導室		
[事業内容]	学校教育の一環である部活動の充実のため、専門性をもった教員が学校にいない場合に、地域の方に部活動の指導者として協力をいただき、支援を行いました。また、中学校体育連盟主催全国大会等の出場校には派遣費を支給し、その活動を支援しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	地域指導者の派遣人数	計画:30人 実績:30人	計画:30人 実績:30人	計画:30人 実績:30人

(2)体験活動の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	集団活動の楽しさや自然体験などを経験させるとともに、健康増進につながる宿泊体験学習などの体験活動が行われるよう、小学校では第5学年時に、中学校では第2学年時に行うキャンプ活動に対し、費用の一部を補助しました。 また、絵画などの美術作品を鑑賞し、お互いに意見を述べることで、観察力や思考力、コミュニケーション能力を培う取り組みとして、対話型美術鑑賞教育を小学校全校で実施しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	健康増進事業補助金 交付校数	計画:28校 実績:28校	計画:28校 実績:28校	計画:28校 実績:28校

(3)職場体験学習の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	中学校で職場体験学習が推進されるよう、職場体験の受け入れに協力する市機関の一覧表を作成し、各校へ配布しました。このほか、学校のキャリア教育担当者へ職場体験推進に向けた情報を提供しました。 ※職場体験受入れ機関:コミュニティセンター、学校給食共同調理場、市立保育園、市立図書館、グリーンアップセンター、消防署 など			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	職場体験協力機関一 覧表の作成・配布	計画:作成・配布 実績:作成・配布	計画:作成・配布 実績:作成・配布	計画:作成・配布 実績:作成・配布

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・自然とのふれあいを大切にしたキャンプを実施し、登山やキャンプファイヤーを通して、自然に親しむと同時に仲間とのつながりを大切にする活動を行いました。
- ・修学旅行をとおして、歴史や文化・伝統に触れ、見識を深める機会としています。
- ・教科や領域の学習の中で、実体験を通して認識する活動を取り入れました。
 - 社会：工場見学や社会見学
 - 生活：昔の遊び（七輪の火おこしや洗濯板の体験学習、竹馬、縄結び）
 - 外国語活動：アメリカンスクールとの交流
 - 福祉体験：アイマスク体験、手話学習、車いすバスケット体験、老人ホームとの交流、講演
 - 環境教育：引地川クリーン作戦、地域のリサイクルステーション活動
- ・地域の事業所や地域の方々の協力を得て職業講話や職場体験を実施するなど、キャリア教育の推進に努めています。
- ・部活動において、地域指導者に専門的技術を指導・支援していただき、生徒の意欲向上につなげています。

▼施策の方向1—4 教育活動全体で道德教育・人権教育の推進を図ります

豊かな情操や自他の生命尊重の精神、規範意識、公共の精神などをはぐくむために、道德の時間を要として学校教育活動全体で、子どもの発達に応じ、実践力を伴う道德教育の充実を図ります。

児童・生徒自身が一人の人間として大切にされているという実感をもつことで、自己や他者を尊重しようとし、主体的に行動できる人権感覚を備えた児童・生徒の育成をめざします。

(1) 道德教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	学校訪問の際に、道德の全体計画・指導計画や具体的な指導方法について指導・助言を行うことで、道德教育に対する意識の向上を図りました。また、初任者を対象に道德教育のあり方や具体的な指導方法についての研修会を開催し、実践での指導に生かせる研修を行いました。 平成 26 年度は校内研究のテーマとして道德教育を設定した学校があり、研究に対する指導・助言を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	教育課題(道德)研究推進校への支援	計画: 支援 実績: 支援	計画: 支援 実績: 支援	計画: 各学校への普及・実践 実績: 実施
	研修会の開催回数	計画: 1 回 実績: 1 回	計画: 1 回 実績: 1 回	計画: 1 回 実績: 1 回

(2) 人権教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	人権教育の目標である「一人ひとりの児童・生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他人の大切さを認めること」が達成されるように、教職員向けに人権教育に係る研修会を開催したほか、児童・生徒向けの講演会に対し、講師を紹介するなどの支援を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	研修会の開催回数	計画: 4 回 実績: 4 回	計画: 4 回 実績: 4 回	計画: 4 回 実績: 4 回
	児童・生徒対象講演会への支援件数	計画: 7 件 実績: 4 件	計画: 7 件 実績: 8 件	計画: 7 件 実績: 5 件

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・ 全体計画、年間指導計画に沿って、全教科・領域で道德教育を意識した教育活動に取り組みました。
- ・ あいさつ運動を継続するとともに、新たに学級指導の時間を設け、あいさつの大切さ、仕方などを指導し、内面化を図りました。
- ・ 学校のスローガンを「笑顔で挨拶しよう・廊下を静かに歩こう・友だちの良いところを見つけよう」とし、「思いやり」の視点から、定期的に生活を見直しました。
- ・ 児童会活動として、朝のあいさつ運動や縦割り活動を行い、異学年の交流を大切にしました。また、道德や総合的な学習の時間を通して、「命の大切さ」「信頼し合うことの大切さ」などお互いに考え学び合う指導を行いました。
- ・ 教育目標である「共生・共育」の視点にたち、道德や教科の時間などに人権尊重の授業を行いました。
- ・ 人権教育強化月間（11 月）を設け、全校一斉に指導にあたりました。
- ・ 警察の方を招き、いじめ防止教室や携帯電話教室など、人権や情報モラルについての学習をしました。
- ・ 横浜国際人権センターなどのさまざまな団体等から講師を招き人権講話を実施しました。
- ・ 出前授業で戦争体験を題材に、命の大切さやお互いを大事にする講話を実施しました。

▼施策の方向1—5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

感性や情緒を豊かなものにし、創造力をはぐくむ読書活動や文化活動は、子どもの健やかな成長にとって大変重要なものです。また、伝統文化などにふれる活動を通して、国際社会で生きていく上で欠かせない異文化尊重などの国際感覚をはぐくみます。

(1)読書活動の推進 (再掲)		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、第3回大和市子ども読書フォーラムを開催したほか、大和市子ども読書感想文コンクールを実施し、優秀作品を文集「こすもす」に掲載しました。</p> <p>朝読書などの読書活動を各小・中学校で進め、本に親しむ時間を確保するとともに、教科等の年間カリキュラムの中に図書館利用の時間を位置付けるなど、学校における読書活動の推進を図りました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	フォーラムの開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回
	大和市子ども読書感想文コンクールの実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:実施	計画:実施 実績:実施

(2)学校図書館教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>学校図書館に司書を配置し、本の魅力の発信や調べ学習に関する本の収集、図書館の整備などを行うことで、児童・生徒が読書活動に親しみ、授業でも有効活用できるように支援を行いました。</p> <p>学校図書館教育をさらに活性化させるため、平成25年度から指導室に「学校図書館支援チーム」を置くとともに、学校図書館スーパーバイザー(SLS)を配置しています。学校図書館教育に関する研修会では、SLSが中心となり講義や演習を実施したほか、各学校を巡回し、学校図書館の運営や活用の支援を行い、学校図書館利用の促進を図りました。</p> <p>小中学校全校で学校図書館システムを導入しました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	司書教諭等・学校図書館司書対象研修会の開催回数	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:2回
	学校図書館司書連絡会の開催回数	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:5回

(3) 中学校図書館施設整備**[担当] 指導室**

[事業内容] 生徒の自主的な読書活動を推進し、生徒の感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするため、生徒がより利用したくなる魅力のある図書室にリニューアルします。

平成26年度は、つきみ野中、引地台中、下福田中の3校で実施し、全9校のリニューアルが完了しました。



リニューアルした学校図書館(引地台中)

[計画と実績]	H24	H25	H26
中学校における整備内容の検討	計画: 検討 実績: 検討		
学校図書館施設の改修		計画: 大和中 他3校 実績: 計画通り実施	計画: つきみ野中学校 他2校 実績: 計画通り実施

(4) 芸術鑑賞等学校行事支援**[担当] 指導室**

[事業内容] 児童・生徒が優れた伝統文化や芸術に接する機会を保障することを目的とした文化的行事の推進のため、各小・中学校で毎年1回程度開催する、演劇や音楽等の鑑賞会に対し、費用の一部を助成しました。

[計画と実績]	H24	H25	H26
文化的行事への助成校数	計画: 28校 実績: 27校	計画: 28校 実績: 26校	計画: 28校 実績: 26校

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・PTA から各学級の学級文庫へと図書を寄贈していただきました。
- ・読書活動を重点目標に設定し、朝読書や読み聞かせ等の取り組みを実施するとともに、春・秋の読書週間の実施やたくさん読んだ児童の表彰などを行いました。また、ブックトレイン・ビンゴなど、意欲を喚起する読書活動の取り組みを実施しました。
- ・朝読書、昼読書、ボランティアの方による読み聞かせ、図書委員会による読み聞かせ、図書司書による読み聞かせ、放課後ひろばでの図書館の開放、朝の図書館の開放を行いました。
- ・掲示などに気を配り、学校図書館の環境を整え、活用しやすい学校図書館を目指して取り組みました。
- ・司書と担任・教科担任が連携を取りながら学習に関する本を教室の前や図書室に展示するなどタイムリーな本の紹介を実施しました。
- ・家読の期間を設け、親子で本に親しむ取り組みを行うとともに、保護者へも本を貸し出しました。
- ・国語科において「読書指導年間計画」を作成するとともに、週3回の読書活動の時間を設定しました。
- ・学校図書館の授業での利活用を促進するため、学校図書館スーパーバイザーの指導助言のもと、書架や机の配置を見直すとともに、蔵書の分類を整理しました。
- ・各学校の計画の下、音楽・劇・狂言・落語などジャンルを決定し、本物の芸術鑑賞教育を実施し、豊かな感性の育成を図っています。

▼施策の方向1—6 健康・安全教育を充実します

子どもが自らの健康をはぐくみ、災害時などにも安全を確保することができるように、基礎的な素養を育成する健康・安全教育を充実させるとともに、喫煙・飲酒・薬物乱用防止、交通安全などに関する教育を推進します。また、望ましい生活習慣や食習慣を身につけさせるため、栄養教諭を中核として食育の推進を図り、学校・家庭・地域が連携して取り組むことをめざします。

(1)健康・安全教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>児童・生徒が災害時等に自らの安全を確保することができるよう、基礎的な知識と実践力を育成する健康・安全教育を推進するため、健康・安全教育担当者会を開催しました。また、平成24年度に防災教育研究部会が作成した防災教育の指導事例集を活用し、各学校における効果的な避難訓練や防災訓練の実施を推進しました。</p> <p>栄養教諭を中核としたネットワークの構築による食育の推進や喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する情報提供を行い、その啓発に努めました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	健康・安全教育担当者会の開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:-	計画:1回 実績:1回
	防災教育研究部会の開催回数	計画:8~10回 実績:11回	計画:授業等において実践 実績:実施	計画:授業等において実践 実績:実施

(2)学校給食における食育の推進		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	<p>健全で豊かな人間性を育むための食育の一環として、週4回の米飯給食に合う和食の献立を充実させ、日本の食文化や食習慣を学ぶ機会が増えました。</p> <p>学校給食における食育推進に関する研究や、調理従事者の研修会等を実施したほか、食育推進を目的とした学校給食講習会や学校給食展を開催しました。</p> <p>PEN樹脂製食器については、導入から一定の年数が経過しましたが、引き続き使用できる状態であったため、平成26年度の見送りました。今後は、食器の使用状況や損傷程度を考慮し、買換えの必要性の高いものから計画的に更新していきます。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	食育研究及び食育に関する研修の実施	計画:実施 実績:5回	計画:実施 実績:5回	計画:実施 実績:5回
	PEN樹脂製食器の買換え			計画:9校分 実績:未実施

(3)学校事故防止の推進		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	<p>学校内における事故防止を推進するため、プール事故など水の事故の防止、ノロウイルス予防に関するパンフレット等を教職員へ配布し、注意喚起しました。</p> <p>市内小・中学校で発生した学校事故を事例とした資料を作成して学校へ配布し、再発防止を呼びかけました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	学校事故防止パンフレット等の配布回数	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:3回	計画:3回 実績:3回

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・発達段階に応じて、「交通安全教室」、「シャッター訓練」、「防犯教室」、「万引き防止教室」、「自転車乗り方教室」、「CAP」、「薬物乱用防止教室」等を実施し、安全や防犯意識の向上がみられました。
- ・栄養士を講師に招き全学年で食育の授業を行い、食育に対する意識を高めました。また、給食委員会の活動としてお昼の放送を利用した栄養の話で食育を推進しました。
- ・健康・食育教育の一環として、虫歯と食生活について養護教諭と栄養士が連携し、授業を実施しました。
- ・水泳学習指導前に心肺蘇生法救急講習の研修会を実施しました。
- ・スタントマンによる 交通事故再現を取り入れた自転車交通安全教室を開催し、交通事故防止の啓発に努めました。
- ・安全防災担当を中心に時間帯や災害の種類の設定を変えた避難訓練を実施しました。
- ・中学校区で同一の日に引き取り訓練を実施し、より実際の場面に近い形で取り組みました。

施策の方向1—1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

[施策の達成度] B

[施策の成果]

- ・不登校フォーラムでは、立場の異なる方々の意見交換を通して、不登校やその支援に対する理解を深め合うことができました。
- ・スクールソーシャルワーカーを3名に増員し、専門性の高い複雑化した問題に対応できるよう、相談体制を充実させました。
- ・客観性を持つ学級集団アセスメントを実施し、個々の児童・生徒の状況に応じたきめ細かい支援や、学年行事等の工夫につなげることで、よりよい学級づくりを進めることができました。
- ・成果指標として設定した「いじめ問題解消の状況（解消率）」は、小学校では目標値に達しませんでした。中学校では中間・最終目標値 100%を達成しました。中学校においても解消率 100%という結果に安住することなく、小中学校とも引き続き早期発見・早期対応を徹底していきます。また、教育委員会としても、教員が児童・生徒指導に注力するための体制づくりに努めていきます。
- ・平成 25 年度に施行した「いじめ防止対策推進法」を受け、いじめ対策の総合的かつ効果的な推進を図るために、「大和市いじめ防止基本方針」を策定しました。いじめ問題に対して、未然防止・早期発見に努めるとともに、早期対応・早期解決に取り組むことを定めたほか、重大事態発生時に調査を行う「いじめ問題対策調査会」、市長が必要に応じて再調査を行う「いじめ問題再調査会」の設置について決めました。
- ・校長・教頭・教務担当者・児童生徒指導担当者等を対象として、いじめに関する講演や各種研修会を重点的に実施しました。また、「大和市いじめ防止基本方針」を周知し、各学校での方針と合わせ活用するよう促しました。これらの取り組みにより、いじめに対する意識の向上とともに、組織的な対応の共有化が図られ、各学校でのいじめ問題への適切な対応につながっています。
- ・小学校3校をモデル校に、児童指導について事案を総括し、中核的な役割を担う「児童支援中核教諭」を選任しました。またその職務に専念する時間を確保するため、授業を代替する非常勤講師を配置しました。
- ・児童生徒一人ひとりが抱える教育的ニーズに対して、特別支援教育ヘルパーの増員など支援体制を充実することで、児童・生徒が困り感を縮小し学校生活を送ることができました。
- ・経済的に困窮している家庭に対し、就学援助制度を適用することにより、学校における学習環境の平等性を維持しています。

[今後の課題]

- ・成果指標として設定した「不登校児童・生徒の割合」は、小中学校ともに中間目標値を達成できませんでした。不登校対策においては、未然防止・早期対応が重要となるため、各学校に対して、欠席が見られ始めた児童生徒への家庭訪問や、青少年相談室からのスクールソーシャルワーカーの派遣等を活用するよう働きかけ、協力体制を構築・強化していく必要があります。
- ・各学校の「いじめ防止基本方針」による取り組みを徹底するほか、人権教育、道徳教育、情報モラル教育の視点を取り入れた学級経営や保護者啓発を図ることが必要です。
- ・より良い集団づくりのため、特に経験の浅い教職員に対して重点的な研修を行うほか、学級集団アセスメントの対象や継続的な実施について検討していく必要があります。
- ・特別支援学級又は普通級に在籍する学習支援が必要な児童・生徒がいずれも増加していることから、特別支援教育ヘルパー・スクールアシスタントのさらなる増員が必要です。
- ・児童支援中核教諭を配置したモデル校の実績を検証し、今後の方向性を検討する必要があります。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)	
			H24	H25	H26			
不登校児童・生徒の割合	%	小)	0.40	0.43	0.40	0.51	0.33	0.25
		中)	3.34	3.01	3.52	3.19	2.80	2.22
いじめ問題解消の状況(解消率)	%	小)	97.9	94.3	95.4	96.0	100.0	100.0
		中)	95.1	100.0	98.6	100.0	100.0	100.0

施策の方向1—2 “確かな学力”を身につける教育を進めます

[施策の達成度] B

[施策の成果]

- ・授業公開や校内研修を積極的に取り入れ、授業形態の工夫や指導法の改善を行い、一人一人の児童・生徒に対して目指す姿の達成に努めました。その結果、言語活動を活発に取り入れる授業が増加し、思考・判断・表現の育成につながっています。
- ・少人数指導等非常勤講師の派遣により、きめ細やかな指導の実践ができ、学校環境に馴染めない児童・生徒の出現防止につながっています。
- ・指導室に「図書館教育支援チーム」を編成し、読書活動・学習活動の拠点としての学校図書館の活用を図っています。
- ・外国語教育では、小中学校の連携も取り入れながら、小学校でコミュニケーション能力の素地を養い、中学校ではその基礎を定着させることを目指して指導に当たっており、児童・生徒の表現力等の向上につながっています。
- ・次回の学習指導要領改訂で導入が予定されている英語教育を視野に、外国語活動のさらなる充実を図るため、モデル校3校において、中学年の年間授業時数を5時間から15時間に増加しました。また、英語教育スーパーバイザー(1名)を新設し、小中学校の外国語活動・英語教育について指導・助言を行いました。
- ・ICT機器に関する研修や実践研究を通して、ICT機器を活用した授業改善が進められています。
- ・情報モラルに関する調査研究やその研修などを通じて、教職員の理解を深め、児童・生徒指導に生かすことができている。また、児童生徒だけでなく家庭への啓発も重要であるため、情報モラル教育に関する授業のほか、保護者向け講演会を実施しました。
- ・体験的な研修や訪問研修など、研修講座を充実させ、教員の理科の授業力向上に努めています。
- ・平成27年度から導入される3学期制が、児童生徒の学力向上や充実した学校生活に結びつくように、授業日の設定や時間数確保の方策、さらに、評価の通知方法などを検討しました。

[今後の課題]

- ・成果指標として設定した「学校の勉強がわかると答えた児童・生徒の割合」は、小学校では中間目標値を達成しましたが、中学校では前年度と同水準に留まりました。平成26年度全国学力・学習状況調査の結果から、小中学校とも、生活面では家庭学習の不足、学力面では特に活用的分野に課題があることが明らかになりました。家庭学習の推進とともに、学校における教員の指導力向上や授業改善の促進など、学力向上に向けた計画的かつ系統的な取り組みが重要です。
- ・学習活動の拠点として、学校図書館を活用した授業の展開をさらに研究していくことが必要です。
- ・小学校における外国語活動のさらなる推進に向け、時数増とともにALTの増員について検討が必要です。
- ・世相に合わせた情報モラル教育を的確に行うため、教員に対する継続的な支援が必要です。
- ・引き続き、教員の理科の授業力向上を図ることが求められています。
- ・放課後や長期休業期間を利用した学力向上対策について検討が必要です。
- ・本市は、外国籍児童生徒が多く国際色も豊かなため、外国語を使ったコミュニケーションができる素地を早い段階から養っていくことが求められています。

[特記事項]

- ・学力向上に向け、教育委員会として具体的な取り組みを行いました。
 - ①小学校6校をパイロット校とし、コーディネーターを中心に放課後の自学自習を支援する「放課後寺子屋やまと」(対象:4~6年生)を開催。
 - ②同コーディネーターが教員の指導力向上や課題解決を目的に授業支援等を実施。
- ・上記の取り組みを小学校全校で実施するための予算措置を行いました。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校の勉強がわかると答えた児童・生徒の割合	%	小) 83.7	88.5	88.5	91.8	90.0	95.0
		中) 75.6	78.9	76.0	75.0	81.0	85.0

施策の方向1—3 体験活動を充実します	[施策の達成度] A
----------------------------	-------------------

[施策の成果]

- ・体験学習等を推進するため、教育委員会では、自然体験・文化的な体験・職場体験などの情報提供や支援を行っており、各学校では、地域の人材などを活用して、教科の授業だけでなく合唱指導や昔の遊びの紹介、キャリア教育や平和教育などが実践されています。専門的な知識や技術を持った方の指導や、実体験に基づく話などを聞くことで、児童・生徒の豊かな心や将来の夢を育てる機会となっています。
- ・中学校の部活動運営に関して、運動部・文化部に関わらず、地域指導者の情報提供や指導者派遣の支援を行うことで、顧問と地域指導者が連携した効果的な活動につながっています。
- ・市長部局と連携した「JFA こころのプロジェクト『夢の教室』」を、従来の対象の小学5年生に加え、中学2年生にも実施しました。
- ・昨年度、小学校10校を対象としていた対話型美術鑑賞教育を、全19校に拡大し実施しました。本物の美術作品を様々な視点から鑑賞し、意見を述べ合うことで感性豊かな児童の育成に繋がっています。
- ・これらの取り組みにより、成果指標の「将来の夢や希望を持っていると答えた児童・生徒の割合」は、小中学校ともに中間目標値を超えました。

[今後の課題]

- ・本物に触れる体験は、感性豊かな児童・生徒を育成したり、将来の自分について考える機会を与えたりすることになります。職場体験の受入先を拡大するなど、各学校での教育活動に効果的な体験学習が組み入れられるよう、教育委員会からの発信を工夫していく必要があります。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
将来の夢や目標をもっている と答えた児童・生徒の割合	%	小) 88.2	87.3	92.4	91.2	89.0	89.0
		中) 69.8	74.0	70.6	71.4	71.0	72.0

施策の方向1—4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります	[施策の達成度] B
--	-------------------

[施策の成果]

- ・道徳教育は、道徳の時間だけでなく教育活動全体を通して児童生徒に発信する必要があることから、計画訪問や要請訪問における授業の指導案に道徳的な記載を求めるなど、教員の意識の向上を図りました。学校によっては、道徳の副読本を朝読書の題材として扱うようになるなど、児童・生徒の豊かな感性の育成につながっています。
- ・「いじめ問題」は道徳や犯罪としての捉え方だけではなく、人権教育の側面からも指導する場面が多くなっています。
- ・人権教育を計画的かつ体系的に進めるため、各学校における全体計画の作成を指示しました。

[今後の課題]

- ・成果指標の「自分からあいさつをすると答えた児童・生徒の割合」は小中学校ともに前年度より増加しましたが、中間目標値を達成することができませんでした。最終目標値達成に向けては、各校におけるあいさつの取り組みがさらに推進されるよう、教育委員会からも発信していくことが必要です。
- ・道徳教育や人権教育は自らの経験と重ね合わせて学習することが有効であり、日常の行動や行事の取り組み、社会での出来事などを題材として発信していくことが重要です。特に人権教育においては、各校で作成した全体計画が活用されるよう、進行状況を確認していくことが必要です。

成果を図る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
自分からあいさつを すると答えた児童・ 生徒の割合	%	小) 88.9	87.5	86.2	89.6	92.0	95.0
		中) 84.1	84.7	86.4	88.1	90.0	95.0

施策の方向1—5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります	[施策の達成度] A
---	-------------------

【施策の成果】

- ・教育課程研究協議会で行った「学校図書館を活用した授業の研究」の成果をまとめた冊子を、各小中学校で、授業や学校図書館の運営に有効利用しています。
- ・小中学校全校で学校図書館システムを導入しました。読書活動・学習活動の拠点としての学校図書館のさらなる活用を図っていきます。
- ・学校図書館スーパーバイザーが中心となり、研修会での講義や演習、各学校を巡回しての学校図書館の運営や活用の支援など、学校図書館教育全般の指導・支援を実施しました。
- ・小中学校ともに学校図書館の利用が活性化しており、年間貸出冊数（一人平均）は小学校で25年度の20.5冊から26年度は22.4冊、中学校では同じく3.7冊から4.6冊へと増加しました。また、学習活動における図書館利用も増加傾向にあります。
- ・学校図書館の蔵書について、小中学校ともに全校で蔵書率が100%に達しました。小学校では、児童にとって興味深い図書や調べ学習に適した図書などを取り揃えることができ、中学校でも、1校平均815冊の入れ替えをし、新鮮度を高めることができました。
- ・中学校3校で学校図書館の改修を実施したことで、全9校のリニューアルが完了しました。多くの生徒が図書館へ足を運び、読書活動や調べ学習などに有効利用しています。

【今後の課題】

- ・成果指標の「1ヶ月間の平均読書冊数」は、小中学校ともに中間目標値を達成することができませんでした。図書館リニューアルや学校図書館システム導入のための休館などが要因の一部と考えられますが、目標達成に向けては、読書習慣の定着を視野に、これまで以上に図書館利用や読書活動を活発にしていくことが必要です。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
1ヶ月間の平均読書冊数	冊	小) 12	11.3	12.2	11.2	13	14
		中) 5	3.7	3.3	3.7	5.5	6

施策の方向1—6 健康・安全教育を充実します	[施策の達成度] B
-------------------------------	-------------------

【施策の成果】

- ・成果指標の「学校事故発生率」は、小中学校ともに中間及び最終目標値を達成しました。
- ・学校事故等の発生防止のための啓発チラシを各学校に3回配布するなど、啓発に努めました。
- ・防災訓練の一環として実施している引き取り訓練を、実践的な場面を想定し、中学校区ごとに小中合同で実施することで、兄弟姉妹のいる家庭への対応等、問題点の把握に努めています。
- ・交通事故防止の取り組みや食物アレルギーへの対応、AEDの活用などについて研修会を開催することにより、児童生徒の安全指導に役立てることができました。

【今後の課題】

- ・学校における安全指導に関して、常に注意を払いながら教育活動を実践するとともに、事故が起きた時に適切な対応が取れるよう、引き続き注意喚起していく必要があります。
- ・防災訓練については、一つの小学校区から二つの中学校に分かれて進学する場合もあるため、小中合同の訓練に関連する中学校区で同日に開催するなど、より実践的な形式を検討する必要があります。
- ・PEN樹脂製食器の買い換えについて、更新時期を精査し、計画的に予算要求していく必要があります。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
児童・生徒学校事故発生率	%	小) 4.8	3.4	2.9	2.5	4.0	4.0
		中) 10.2	10.0	11.3	8.2	9.4	9.4

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

[総合評価]

B

[基本目標1に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

重点施策である「いじめ・不登校問題の解消」については、「教育委員会運営の見直し」の方針に基づく青少年相談室体制の是正・強化、「読書活動の推進」については、学校図書館のリニューアルや学校図書館システムの導入等、施策推進のための環境整備が進んでいます。また、学校図書館でのタブレット端末の活用など、授業の可能性がさらに広がっています。

加えて、学力向上対策についても、現状の把握と分析に基づき、具体的な取り組みを行いました。新たに開始した「放課後寺子屋やまと」については、パイロット校6校においてそれぞれ工夫を凝らした取り組みがなされ、参加人数が100人を超える月もあるなど、放課後の学習の場として定着しつつあります。また、コーディネーターによる授業力支援についても、6校それぞれで200件前後実施され、教員の指導力向上を図りました。

一方、施策の方向全体としては、引き続き取り組みを強化すべき課題が見られます。成果が十分に表れるよう、それぞれの施策において進行管理を徹底し、課題の検討とその改善・解決を繰り返すことで、目標達成に向け前進していきます。

基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

子どもの生きる力をはぐくむために、創意ある教育課程の編成と、地域の風が行き交う信頼される学校づくりに努めます。

教職員は、子どもたちの「自ら成長する力」をはぐくむために、自らの職責の重要性を認識し、自己研鑽に努めることで、教職員としての資質向上をめざします。

■実施計画掲載事業と平成26年度の実績

▼施策の方向2—1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します

各学校における教育課程は、学習指導要領に従い、児童・生徒の発達段階や地域の特性を踏まえながら、教育目標、教育内容、指導組織、指導計画の総体として編成されます。児童・生徒の生きる力がはぐくまれるよう、各学校の創意ある教育課程の編成を支援します。

(1) 学校訪問による指導

[担当] 指導室

[事業内容]

教職員の指導力向上を図るため、指導主事等が学校を訪問し、指導方法をはじめ、教育全般にわたり指導・助言を行いました。

※計画訪問: 学校教育全般にわたる諸問題を把握し、専門的事項について指導助言を行います。

※要請訪問: 授業実践や校内研究、教育課程に関する指導助言を行います。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
計画訪問の実施回数	計画:28回	計画:28回	計画:28回
	実績:28回	実績:28回	実績:28回
要請訪問の実施回数	計画:42回	計画:52回	計画:64回
	実績:88回	実績:91回	実績:90回

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・社会性の伸張をめざし、毎週月曜日、1～6年生で縦割りグループをつくり、異年齢での遊びなどの活動を行いました。
- ・地域の方から畑を借りて育てたサツマイモを地域の行事で販売し、その収益を学級文庫の購入に当てる取り組みをしました。
- ・近隣の中学校・高校との連携や交流を行いました。
- ・エコキャップ運動、グリーンカーテン、また、自校の特徴を活かした「芝生で遊ぼう」等のイベントを通して教育活動を推進しています。

▼施策の方向2-2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

児童・生徒の実態や地域の様子を踏まえ、保護者や地域住民と連携した特色ある学校運営をめざします。また、保護者や地域への積極的な情報の発信や学校評議員制度の活用など、学校・家庭・地域と関わりを深め、地域の中で信頼される学校づくりを進めます。

(1) 学校評議員の委嘱

[担当] 指導室

[事業内容] 学校の運営に対し意見をいただくことを目的に、主に地域の方の中から校長の推薦があった方を学校評議員として委嘱しました。
学校評議員は、評議員会や学校訪問、学校行事への参加や授業内容の参観などを通じて学校に対する意見や助言をします。また、各種アンケート結果から学校の教育活動に対して助言するなどの活動をしています。各学校では、その助言を受け、次年度の教育活動の計画に生かしています。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
学校評議員の委嘱人数	計画:160人 実績:158人	計画:160人 実績:155人	計画:160人 実績:159人

(2) 大学との連携

[担当] 指導室

[事業内容] 大学と児童・生徒の教育活動を支援する「教育インターンシップ」に関する協定を締結し、学生ボランティア 10 名を各学校に派遣しました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
協定を結んだ大学数	計画:5校 実績:5校	計画:6校 実績:5校	計画:7校 実績:6校

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・「学校へ行こう週間」を設定し、地域・保護者に学校の教育活動を公開し、子どもたちの様子を参観していただきました。
- ・毎月3日を「学校公開日」として、保護者・地域の方々にいつでも学校に来ていただけるようにしました。
- ・土曜授業参観を設定し、平日には来校の難しい保護者にも児童の学習の様子を参観してもらいました。
- ・学生の学習支援ボランティアを積極的に受け入れ、子どもたちとふれあってもらうことで、教育の重要性を知ってもらっています。
- ・年3回の学校評議委員会を開催し、いじめ・不登校の問題や学校評価など多方面の意見交換を実施した。また、いただいた意見を次年度の教育活動に生かすようにしています。

▼施策の方向2-3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

安全と安心に守られた学校生活をめざし、防犯体制の整備とともに、家庭・地域と協力して登下校時などの安全確保に努めます。また、大規模災害時に備え、学校の防災計画の見直しを推進します。

学校給食では、安全で、栄養バランスのよい給食を提供します。

(1)児童・生徒の安全対策		[担当] 指導室		
[事業内容]	不審者情報をはじめ、台風など自然災害に伴う児童・生徒の登下校に関する情報や運動会など学校行事の実施に関する情報を学校から保護者に対し発信できる学校 PS メールについて、システムの保守を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	学校PSメールシステムの保守	計画:保守の実施 実績:保守の実施	計画:保守の実施 実績:保守の実施	計画:保守の実施 実績:保守の実施

(2)共同調理場及び単独調理場大規模改修		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	安全で良質な学校給食を提供するため、学校給食施設の大規模な改修を行いました。平成 26 年度は、北部学校給食共同調理場の耐震補強工事を行ったほか、受入校の給食用エレベーター改修工事を大野原小とつきみ野中において実施しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	北部学校給食共同調理場の耐震補強	計画:詳細設計 実績:実施設計	計画:工事 実績:未実施	計画:工事 実績:実施
	エレベーター改修工事	計画:文ヶ岡小、上和田中、南林間中 実績:計画校の実施設計	計画:上和田小 実績:上和田小、大和東小、鶴間中	計画:つきみ野中 実績:大野原小、つきみ野中
	受変電設備改修工事	計画:南部調理場 実績:南部調理場	計画:中部調理場 実績:中部調理場	

(3) 共同調理場及び単独調理場運営**[担当] 保健給食課**

[事業内容] 安全で良質な学校給食を提供するため、学校給食衛生管理基準等に基づき給食調理業務を行いました。

給食調理業務の運営、委託、備品購入、施設管理に伴う光熱水費管理等を行うとともに、調理場等を対象に衛生検査を実施し、食中毒や異物混入の防止に努めました。

受入校(20校)は隔年で10校ずつ衛生検査を実施しています。

《対象校及び1日あたりの食数(平成26年5月1日現在)》

【北部調理場 :4,063食】 緑野小・大野原小・中央林間小・大和中・つきみ野中

【中部調理場 :4,362食】 柳橋小・南林間小・大和東小・弓地台小・光丘中・鶴間中・南林間中

【南部調理場 :4,157食】 上和田小・福田小・下福田小・文ヶ岡小・渋谷中・弓地台中・

上和田中・下福田中

【単独調理校 :直営2,072食・委託3,967食】

(直営) 林間小・草柳小・深見小

(委託) 北大和小・大和小・桜丘小・西鶴間小・渋谷小

[計画と実績]

	H24	H25	H26
衛生検査実施施設数 (学校給食共同調理場)	計画:3施設 実績:3施設	計画:3施設 実績:3施設	計画:3施設 実績:3施設
同 (単独調理校)	計画:8施設 実績:8施設	計画:8施設 実績:8施設	計画:8施設 実績:8施設
同 (受入校)	計画:10施設 実績:10施設	計画:10施設 実績:10施設	計画:10施設 実績:10施設

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・学校 PS メールを有効活用し、不審者情報を保護者に発信し、児童・生徒を見守る目を増やして、児童・生徒の安全を図っています。
- ・「危険予知訓練」を全校朝会で行い児童の安全意識の育成に励んでいます。
- ・小中合同での引き取り訓練を行い、災害時の下校について共通理解を図っています。
- ・災害時や不審者等の安全確保のために、地域の方や教職員による登校指導やパトロールを実施しました。また、登校時の交通安全を目的とした地域・保護者による旗振り指導も行いました。
- ・災害時の防災備蓄品として、ビスケット・ペットボトルの水・簡易トイレなどを購入しました。

▼施策の方向2-4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

安全・安心な学校環境をめざし、老朽化した学校施設の改善を計画的に進めるとともに、児童・生徒が主体的に学べる教室環境づくりに努めます。また、学校規模の適正化に努めます。

[担当] 教育総務課

(1) 学校施設老朽化に伴う大規模改修

[事業内容] 良好な教育環境に維持していくため、老朽化した校舎を計画的に改修ができるよう、整備計画に基づき、工事を2校(つきみ野中・桜丘小)で行いました。
つきみ野中学校は、大規模改修にあわせてエレベーターを設置しバリアフリー化を図りました。また、桜丘小学校は、平成27年度の改修工事に向けて、仮設プレハブ校舎を設置しました。




改修が完成したつきみ野中学校（正面玄関及びコンピュータ教室）

[計画と実績]

	H24	H25	H26
桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)
渋谷小	/	/	計画: 実施設計 実績: H27に予定
大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 工事(2/2)	/
つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 工事(2/2)

[担当] 教育総務課

(2) 学校防音設備整備

[事業内容] 航空機騒音を軽減し良好な室内環境の下での教育を実現するため、工事を2校(つきみ野中、桜丘小)で行いました。
つきみ野中学校は、計画どおり工事が完了し、桜丘小学校は、仮設プレハブ校舎が完成しました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)
渋谷小・南林間中	/	/	計画: 実施設計 実績: H27に予定
大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 工事(2/2)	/
つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)	計画: 工事(2/2) 実績: 工事(2/2)

(3)学校トイレ改修		[担当] 教育総務課		
[事業内容]	小学校3校、中学校3校のトイレを、明るく衛生的で、使いやすいトイレに改修しました。改修にあたっては、臭いの元となる細菌の繁殖を抑えるためにすべて乾式トイレに変更するとともに、一部のトイレをバリアフリー化しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	改修工事 (小学校)	計画:林間、大和、 草柳、南林間 実績:計画通り実施	計画:北大和、 深見、西鶴間、柳橋 実績:計画通り実施 (柳橋はH26年度計 画分も実施)。	計画:大野原、林 間、南林間 実績:計画通り実施
	改修工事 (中学校)	計画:引地台 実績:計画通り実施	計画:大和、南林間 実績:計画通り実施	計画:引地台、 つきみ野、上和田 実績:計画通り実施

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・日常的に校舎内外の施設を確認し、必要に応じて教育委員会に修繕を依頼するなど、安心と安全に留意して維持管理に努めています。

▼施策の方向2-5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

人格的資質・課題解決力・授業力など、教職員の資質・能力の向上や学校の教育力を高める研修の充実を図ります。また、校内研修としてOJTの活用を図るなど、“学びつづける教職員”をめざし、はたらきかけます。

(1)教職員研修		[担当] 指導室、教育研究所		
[事業内容]	<p>教職経験に応じた研修や、校長・教頭などの職責に応じた研修に加え、専門性を高める研修(希望研修及び各校1名以上の選出研修)を行いました。</p> <p>主に希望研修講座として人格的資質向上研修講座、課題解決力向上研修講座、授業力向上研修講座を11回行いました。</p>			
				
	教職員研修の様子			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	各種研修会の実施	計画:実施 実績:59回 (教育研究所15回 指導室44回)	計画:実施 実績:58回 (教育研究所15回、 指導室43回)	計画:実施 実績:62回 (教育研究所15回、 指導室47回)

(2)教育研究支援		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>各学校に対し、「今日的な教育課題の解決に向けた研究」や「小中連携に関する研究」、「各学校の校内研究の質的向上」などに関する教育研究を委託しました。また、市内教職員の横断的な研究組織に対し、補助金等を交付しました。</p> <p>※小・中学校教育研究会は、各部会で年4～6回にわたり、各年度設定したテーマについて研究し、その成果を機関誌にまとめ報告します。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	研究委託	計画:教育課題研究推進委託3校、 その他25校 実績:教育課題研究推進委託3校、 その他25校	計画:教育課題研究推進委託3校、 その他25校 実績:教育課題研究推進委託3校、 その他25校	計画:教育課題研究推進委託3校、 その他25校 実績:教育課題研究推進委託3校、 その他25校
	市小・中学校教育研究会等への助成	計画:39部会 実績:38部会	計画:39部会 実績:38部会	計画:39部会 実績:38部会

(3)学校訪問による指導（再掲）		[担当] 指導室		
[事業内容]	教職員の指導力向上を図るため、指導主事等が学校を訪問し、指導方法をはじめ、教育全般にわたり指導・助言を行いました。 ※計画訪問:学校教育全般にわたる諸問題を把握し、専門的事項について指導助言を行います。 ※要請訪問:授業実践や校内研究、教育課程に関する指導助言を行います。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	計画訪問の実施回数	計画:28回 実績:28回	計画:28回 実績:28回	計画:28回 実績:28回
	要請訪問の実施回数	計画:42回 実績:88回	計画:52回 実績:91回	計画:64回 実績:90回

(4)教科における体験的活動の推進		[担当] 指導室、教育研究所		
[事業内容]	新学習指導要領の趣旨に沿った体験的な学習、問題解決的な学習の充実に向けて、教職員対象の研修会や訪問指導を行いました。 ・社会「地域学習～市内歴史めぐり～」 ・理科「引地台公園で自然観察～副読本『大和の自然』を手にとって～」 ・音楽「学級担任による合唱指導～歌う気持ちから表現へ～」 ・体育「『できる』までの過程をこう教える～器械運動の指導の実際～」			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	体験的な学習を踏まえた授業力向上研修の開催回数	計画:1回 実績:2回	計画:1回 実績:2回	計画:1回 実績:4回
	要請訪問時における指導・助言	計画:実施 実績:88回	計画:実施 実績:91回	計画:実施 実績:90回

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・校内研究推進委員会を中心に、研究テーマに沿って授業研究を中心に評価と指導の一体化について研究を推進しました。
- ・毎月1回以上の校内研究の実施及び各学年1回の研究授業を行い、全職員参加の研究会を3回実施しました。
- ・観点別評価による評価に向けて通信表の作成と観点別評価を視野に入れた授業について校内研究で研鑽を積みました。
- ・講師を招いて、電子黒板の研修、事故防止研修、ALTとの外国語研修を行いました。また、児童指導上の問題をケース会議形式で、全員で共有する児童指導研修会を実施しました。
- ・情報モラルについての授業を全学年で行い、授業を見学し合いました。また、外部講師による授業作りの研修も実施しました。
- ・ユニバーサルデザイン化を意識した全職員による授業研究と校内研究会の充実を図りました。
- ・小中の交流活動を充実させ、さらなる発展に向けて研究協議や意見交換をし、共通認識を図ることで、今後の取り組みに役立てました。

▼施策の方向2-6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

地域の方々及びスクールアシスタントなどの非常勤職員によるサポート、校務用PCの一人1台の整備、校務・組織の見直しなどを進め、教職員が子どもと向き合う時間の確保に努めます。

(1)教育用コンピュータ整備		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	小中学校のコンピュータ教室等に設置する教育用コンピュータ及び小学校校務用コンピュータを整備しました。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校普通教室用タブレットを1,360台新規導入 ・小中学校特別支援学級用タブレット127台新規導入 ・中学校移動式電子黒板18台新規導入 ・小学校校務用コンピュータ437台追加導入 また、校務や授業における教員のICT活用能力向上を図るため、ICT支援業務委託を開始し、ICT支援員を6人配置しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	機器等の更新	計画:小学校職員系校内LANサーバ機器等の更新 実績:実施	計画:小学校職員系校内LANコンピュータ機器の更新 実績:実施	計画:コンピュータ教室機器の更新 実績:実施

(2)教職員健康診断		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	疾病の早期発見と予防、健康の保持を図るため、教職員の健康診断のほか、メンタルヘルズ講座を実施しました。			
	教職員健康診断 実施日:8月1日、8月19日、8月22日 受診者数:684人			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	教職員健康診断の実施	計画:3日 実績:3日	計画:3日 実績:3日	計画:3日 実績:3日
	教職員対象メンタルヘルズ講座の開催	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回

(3)非常勤講師派遣		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	小中学校において、教職員が病気療養や研修等で短期間(2週間未満※)不在となる場合、授業に支障が出ないよう、学校長からの要請により非常勤講師を任用し、学校に派遣します。			
	平成26年度は、必要となる事態が発生せず、派遣はありませんでした。 ※県費非常勤講師の派遣対象外			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	派遣日数	計画:11日程度 実績:30日	計画:11日程度 実績:23日	計画:11日程度 実績:派遣なし

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・セキュリティの意識を高く持ち、電子データの管理を進めています。文書作成や成績処理において校務の情報化を図っています。
- ・校内の衛生推進者(教頭)が中心になり、労働安全衛生管理体制の推進に努めています。

施策の方向2—1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度から導入される新しい 3 学期制の実施に向け、学校や保護者に対し丁寧な説明を行うとともに、必要な教育課程の見直しを依頼しました。 計画訪問における各校の重点項目や教育課程の工夫の把握、要請訪問における委託研究や校内研究を具現化する授業の参観や校内研究会への参加により、当該校の取り組みや今後の方向性について指導・助言を行いました。この結果、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業展開や校内研究の質的向上が見られました。 各学校では、「縦割り活動を通したリーダーシップ・フォロワーシップの育成」「ゆっくりと読書に取り組める時間を作るための時間割の工夫」「計画的に漢字学習に取り組む朝の時間の確保」など、自校の学校目標達成に向け創意・工夫のある教育活動に取り組んでいます。また、保護者や地域の方々などの協力による「安全教育」「読み聞かせ」「キャリア教育」などの実践もあり、学校による様々な工夫が見られます。 教育委員会では、これらの工夫を情報提供するとともに、教職員間での情報交換の機会を多く持つため、さまざまな研修会でグループ協議のテーマとして設定することで、各校で更なる取り組みの工夫が進められるよう支援しています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校が新しい 3 学期制を軌道に乗せ、そのメリットを生かした創意ある教育課程を編成できるよう支援していくことが求められています。 学校評価アンケートを、各校において次年度の課題の検討、改善に活用する仕組みづくりが必要です。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
創意ある教育課程を編成している学校数	校	28	28	28	28	28	28

施策の方向2—2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します						[施策の達成度] A	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果指標の「学校評議員の来校日数」は、中間・最終目標値を達成しました。重点施策であるいじめ・不登校問題の解消や読書活動の推進をテーマに設定するなど、各学校の教育活動に対して多くの意見をいただき、より良い教育環境や教育活動に繋がっています。 「学校へ行こう週間」を多くの方に見学してもらえるように、教育委員会のホームページに公開するなど情報提供に努めています。各学校で行われている教育活動を地域・保護者に幅広く公開することで、学校に対する地域からの理解や協力が得られています。 大学との連携により学校に派遣したインターンシップの学生が、児童・生徒への学習支援の担い手として活躍しています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会では、学校支援ボランティア人材バンクに登録していただいている方々の名簿を冊子にして各学校へ配付していますが、これまで以上に、学校にとって有効な人材の確保や情報発信に努めていく必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校評議員の来校日数	日	5.4	5.8	6.2	9.3	6.5	8

施策の方向2—3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の「応急手当普及員数」は前年度に比べ12人増加し、引き続き中間目標値を達成しました。 ・学校 PS メールでは、不審者情報だけでなく、自然災害に伴う登下校の情報、さらに、学校行事や学校との連絡事項などの有効な情報を発信しています。登録世帯数は12,907件（登録率83.8%）となり、昨年度より増加しました。不審者情報については各家庭へ情報を伝達することはもちろん、関係各課との情報共有を図り、児童生徒の安全対策に役立てています。 ・平成25年度に作成した異物混入事故防止対策マニュアルを基に、調理機器・器具等の管理を徹底するとともに、委託業者との情報交換会を定期的開催するなど再発防止に努めています。 ・給食の食材は国内産を基本として、遺伝子組み換えがされていないものを使用し、食品添加物を極力避けるなどの取り組みにより、安全・安心な給食を提供できています。 ・保護者の経済的負担の軽減を図るため、第3子以降の子どもに係る学校給食費の助成を開始しました。 ・共同調理場の衛生管理のため、北部調理場・中部調理場においてトイレ改修工事を行いました。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校 PS メールで配信する情報については、関係各課のほか、広く関係機関とも共有することで、より有効な活用を進めていくことが望まれます。 ・給食を安全かつ安定的に提供するため、総合保守点検の結果を踏まえ、計画的に調理機器等を更新する必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
応急手当普及員数	人	63	98	96	108	90	112

施策の方向2—4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ改修では、床面を湿式から乾式に変更したほか、便器を和式から洋式へと変更し、照明や内装を明るくするものにするなど、児童・生徒が明るく快適な学校生活を送ることができるよう改修しました。 ・つきみ野中学校において平成25年度に着手した大規模改修・学校防音設備整備工事は、平成26年度に完了しました。また、エレベーターを設置しバリアフリー整備を行いました。 ・北大和小学校では、児童数増加による教室不足が見込まれたため、プレハブ校舎を増築し対応しました。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標として設定した、日常的な修繕要望に対する「修繕必要施設の改善割合」は前年度と比べ4.6ポイント減少し、中間目標値を達成することができませんでした。営繕作業員による補修とともに業者委託を活用し、効率的な補修処理を行うことが必要です。 ・老朽化が進む各学校施設を把握し、適正な優先順位を判断し整備を進めることが必要です。 ・開発事業の影響等により、今後も教室数の不足が見込まれる学校があることから、児童生徒推計を注視し、学校施設の拡充や学校規模の適正化などの対応を検討する必要があります。 ・中学校への通学に際し電車利用が必要となる小学校区があることから、通学費の助成について検討する必要があります。 <p>[特記事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文ヶ岡小の児童数増加による教室不足に対応するため、校舎増築に向けた実施設計を行いました。平成27年度に工事を行い、平成28年4月からの使用開始を予定しています。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
修繕必要施設の改善割合	%	86.0	88.7	89.5	84.9	90.0	90.0

施策の方向2—5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託研究として研究期間3年間の教育課題研究推進校3校、2年間のふれあい教育実践研究推進校3校、1年間の小・中連携実践研究推進校1校を定めています。これにより、該当校では、組織的、実践的な研究や地域の特性を生かした研究、小中連携をテーマにした研究などを行い、児童・生徒の学力向上や規範意識向上などに役立てています。 ・学習指導要領の改訂から小学校では4年、中学校では3年が経過し、各学校では、その主旨を踏まえた授業研究等が行われています。教育委員会では、計画訪問や要請訪問の機会を利用して指導・助言を行うことで、質の高い研究や授業が展開されるよう努めており、成果指標の「校内研究に際し指導主事派遣要請をした件数」は90回と、昨年と同程度となりました。 ・今日的な教育課題に取り組むための研修講座を開催し、日々の授業や教育活動に反映させることができています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりに対し、きめ細かい指導と分かりやすい評価を行うとともに、指導と評価の一体化を意識した教育活動が求められます。 ・研究推進校における研究成果を、当該校で生かすことはもちろん、集約し普及していくための仕組みづくりが必要です。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
校内研究に際し、学校が指導主事派遣要請をした件数	回	42	88	91	90	52	64

施策の方向2—6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます				[施策の達成度] A			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校校務用コンピュータを一人1台整備したことにより、校務の効率化を図ることができました。 ・教育の情報化を推進するための、全小中学校へのタブレット型コンピュータ整備が完了しました。 ・これらの環境整備に合わせ、教員のICT活用能力の向上を図るため、ICT支援員を6人配置しました。 ・成果指標の「教職員の健康診断・人間ドック受診率」は98.8%と、昨年度に引き続き中間目標値を達成しました。最終目標値の達成に向けて、引き続き健康診断受診の呼びかけを強化することや、教職員の他の会議と日程が重複しないよう参加しやすい日程とすることが必要です。 ・メンタルヘルスに関する講習会などを通じてメンタルヘルス相談制度などの周知に努めています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師の急な派遣要請について、特に中学校においては、教科によっては対応できない場合もあるため、幅広い人材の確保に努める必要があります。 ・全小中学校に整備したタブレット型コンピュータや電子黒板を一層有効に活用していくため、ICT支援員の増員について検討が必要です。 <p>[特記事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が子どもと向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る校務支援システムの導入に向けた予算措置を行いました。有効なシステムを構築できるよう検討を進めていきます。 ・非常勤講師の登録募集記事を平成26年度ビジュアル版「大和の教育」に掲載しています。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
教職員の健康診断・人間ドック受診率	%	95.9	96.2	98.1	98.8	98.0	100.0

基本目標 2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

[総合評価] B

[基本目標2に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向に向けた取り組みを進め、概ね目標とする成果が表れています。創意に満ち活力ある学校づくりのためには、引き続き地域や家庭の協力を得て着実な取り組みを進める必要があります。

平成 26 年度は、小学校の教員一人 1 台の校務用コンピュータや全小中学校へのタブレット端末の整備完了など、校務の効率化や教育の情報化に向けたハード面での環境整備が進みました。この成果を真の意味で目標達成に寄与させるため、それを最大限に生かすためのソフト面への支援も重要度を増しています。教員一人ひとりが時代の流れに対応し学び続ける姿勢を持つこと、教育委員会ではそれを支援する仕組みを整えることが必要です。このため、長期的な展望と多面的な視点に加え、スピード感をもって教育環境の整備に取り組むことが求められます。

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

家庭は、子どもにとって、日々の暮らしの中で心とからだを健やかにはぐくむ重要な場であるとともに、安心できる場所です。

学校教育において、学校・家庭間の連携を一層進めることで、基本的な生活習慣や、人への信頼や人とかかわる力の基礎をはぐくみに努めます。

■実施計画掲載事業と平成 26 年度の実績

▼施策の方向3—1 学校と保護者との連携を深めます

基本的な生活習慣・規範意識、読書の習慣などについて、家庭と連携を深める中で定着をめざします。

また、保護者の協力による授業や校外活動における安全確保、保護者同士の交流会設定など、学校と保護者の関係を深める支援に努めます。

(1)教育委員会広報誌発行		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	学校教育について地域全体で理解をいただくとともに、教育委員会の施策や学校の特色ある教育活動について、市民に広く周知するため、教育委員会広報誌、ビジュアル版「大和の教育」および「まなびやまと」を発行しました。また、広報誌の発行を通して保護者と連携した学校教育推進のため、学習会への参加や活動への協力を働きかけました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ビジュアル版「大和の教育」の発行 (75,500部)	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回
	「まなびやまと」の発行 (各75,500部)	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:2回


本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・広報誌をもとに話題のやりとりを通して保護者との関係を密にし、信頼関係の構築に努めています。
- ・学校ホームページ、学校・学年・学級だより、給食だより等の媒体を活用するなど、学校内の情報の発信に努めています。

▼施策の方向3—2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します

保護者を対象とした学習会や、親子で参加できるイベントなどを開催し、子ども理解につながる情報を提供するとともに、基本的な生活習慣の確立を支援する取り組みを進めます。また、相談体制の充実により、悩みや不安を抱える家庭を支えています。

(1) 青少年相談		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	<p>いじめや不登校などで悩んでいる児童・生徒やその保護者等から相談(電話相談 193件、来室相談 300件)を受け、その課題解消に向けた支援をしました。中でも、家庭環境の調整や関係機関(医療・福祉)との連携が必要となる複雑な相談に対しては、平成 26 年度から 3 名体制としたスクールソーシャルワーカーが支援を行っています(SSW の対応件数 96 件)。</p> <p>学校における教育相談の質的な向上を図るため、各学校へ「修復的対話」プログラムの導入を進めました。特別相談員が講師となり、教職員や相談室相談員等を対象に同プログラムの研修を実施しました。(年間研修回数 17 回(教職員対象 12 回、相談室相談員等対象 5 回))</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	SSW の稼働日数	計画:2 日/週 (1 名体制) 実績:2 日/週 (10 月から 4 日/週 2 名体制)	計画:4 日/週 (1 名体制) 実績:4 日/週 (2 名体制)	計画:4 日/週 (1 名体制) 実績:4 日/週 (3 名体制)

(2) 親子料理教室		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	<p>子どもたちに料理を自分で作る喜びを感じ、給食への理解を深めてもらうとともに、家庭における食に対する意識を高めながら親子の絆を深めることができるよう、親子料理教室を開催しました。</p> <p>・夏休み親子料理教室 開催日:7 月 29 日、30 日 参加者数: 97 名</p>			
				
		夏休み親子料理教室		
[計画と実績]		H24	H25	H26
	親子料理教室の開催回数	計画:2 回 実績:2 回	計画:2 回 実績:2 回	計画:2 回 実績:2 回

(3) 保護者対象講座**[担当] 青少年相談室、教育研究所**

[事業内容] 保護者に限らず、教職員や青少年関係団体関係者をはじめとする、多くの市民の方々の子ども理解を深めるため、抱える課題に応える講演会を開催しました。

- ・青少年相談講演会
平成 26 年度は、いじめ・不登校など学校内の課題解決力の向上を図るため、教職員を対象とした『修復的対話』ファシリテーター養成研修として実施しました。
参加者数 30 名
- ・非行防止講演会
平成 25 年度から、非行防止に限らず幅広く青少年の健全育成をテーマとした講演会とするため、名称を「青少年健全育成講演会」に変更しました。
「子どもたちの豊かな育ちのために～子どもたちの居場所づくり～」
参加者数 87 名
- ・教育講演会 「子どもの心を理解する～大人は何をすべきか～」参加者数 46 名
- ・教職員向け研修講座の中に保護者、市民を対象とした講座を 3 講座開催しました。
「子どもの人権と子どもの育ちを考える～子どもとおとなのいい関係をめざして～」
参加者数 36 名
「怒りの感情と上手に付き合う術」参加者数 55 名
「動物目線で見てみよう～海洋生物の新発見～」参加者数 34 名

[計画と実績]	H24	H25	H26
青少年相談講演会	計画:2 回 実績:2 回	計画:2 回 実績:2 回	計画:2 回 実績:2 回
非行防止講演会 (H25～青少年健全育成講演会に名称変更)	計画:1 回 実績:1 回	計画:1 回 実績:1 回	計画:1 回 実績:1 回
不登校を考える保護者会	計画:3 回 実績:4 回	計画:3 回 実績:3 回	計画:3 回 実績:3 回
教育研究所教育講演会	計画:1 回 実績:1 回	計画:1 回 実績:1 回	計画:1 回 実績:1 回

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・子育てに関し、懇談会の中で話し合いの場を設けたり、講演会を開催したりしています。
- ・派遣された相談員やスクールカウンセラー、不登校生徒支援員と連携し、保護者の相談に応じているほか、スクールソーシャルワーカーや心理カウンセラーなどと連携し、保護者及び児童・生徒の悩みや不安を解消できるよう対応しています。

施策の方向3—1 学校と保護者との連携を深めます						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点施策である読書活動、いじめ・不登校対策に関する学校の取り組みや、保護者や地域の方々と共に学ぶ学習や取り組みなど、掲載情報を精選した広報紙を作成・発行しました。これにより学校教育施策の方向性や子どもの学びの姿などの情報を保護者と共有することができ、各学校の教育活動についての理解を深めることにつながっています。 学校独自の情報をタイムリーに発信することが重要であり、学校ホームページの活用推進を呼びかけました。ICT 支援員を活用してホームページを発展させるなど、各校での取り組みが進みました。 保護者や地域の方々などの協力による「安全教育」「読み聞かせ」「キャリア教育」などの実践を通し、連携強化に努めました。 成果指標の「学校から家庭への連絡や情報提供が十分されていると感じている小学校保護者の割合」は、前年度に比べ 4.4 ポイント増加し、中間目標値を達成しました。最終目標値の達成に向け、引き続ききめ細かい情報提供に努める必要があります。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域が連携した取り組みを進めていく必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校から家庭への連絡や情報提供が十分されていると感じている小学校保護者の割合	%	81.3	92.9	84.1	88.5	85.0	90.0

施策の方向3—2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します	[施策の達成度] C
----------------------------------	------------

[施策の成果]

- ・夏休みに児童・生徒とその保護者を対象に「夏休み親子料理教室」を2回開催し、食に対する理解を深め親子のふれあいの場を提供することができました。
- ・教育や青少年の健全育成等に関する講演会を開催することで、保護者をはじめとする多くの市民に対し、子どもへの理解を深める機会を提供できました。

[今後の課題]

- ・食や親子のふれあいに関心がある方の参加が多いという傾向があることから、関心が薄い方にも参加してもらえるようPRなどを工夫していく必要があります。

[特記事項]

- ・青少年相談室における不適切な組織運営の下で、相談員の辞職が相次ぎ、本施策の根幹となる保護者、学校及び関係機関との信頼関係が破綻していたことから目を背けるわけにはいきません。
- ・事実を受け止め、反省と検証を重ねて策定した「教育委員会運営の見直し」の方針に基づき、青少年相談室の相談体制を見直すとともに、学校及び関係機関との関係改善に努めました。スクールソーシャルワーカーや心理カウンセラーが本来の専門職としての能力を発揮するとともに職責を果たし、複雑化した悩みや不安を抱える児童生徒とその保護者に対して、課題解消に向けた支援を行いました。その結果、成果指標の「スクールソーシャルワーカーがかかわるケース数」は96件となりました。
- ・また、学識経験者である青少年相談室特別相談員が、ケースの初期段階から関わることとし、支援方針の検討などに専門的な知見を生かして、相談活動の質的な向上を図っています。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
スクールソーシャルワーカーがかかわるケース数	件	6	40	73	96	20	25

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます	[総合評価] B
---------------------------------	----------

[基本目標3に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

施策の方向3—1においては、概ね期待される成果が見られました。学校と保護者との連携を一層深めるには、児童生徒に係る家庭の興味を的確に捉えた情報発信をしていくことが重要です。放課後の学習習慣の定着や家読の推進などの総合的な事柄に加え、各校がそれぞれの特色を生かして行っている取り組みについても積極的に発信していくことで、学校と家庭との共通理解が進み、目標達成に向けた信頼関係の構築につながっていくと考えられます。

他方、施策の方向3—2については、特記事項として述べたとおり、施策の根幹を揺るがす問題があり、その検証を行いました。適切な組織運営がなされていれば、本目標における成果はもっと高いものであったはずですが、係る職員一人ひとりが、生きる力の基礎をはぐくむという目標を改めて確認し、家庭が子どもの心の拠り所となるよう、学校や関係機関との連携を強化し、家庭を支える環境づくりに邁進する必要があります。

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

子どもは地域で育ちます。異年齢の子どもや経験豊かな人々とのふれあいにより、生きる知恵と社会性を身につけ、思いやりの心をはぐくみます。

学校・地域間の連携を一層進めることで、児童・生徒の活動の充実を図るとともに、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。

■実施計画掲載事業と平成 26 年度の実績

▼施策の方向4—1 地域社会と協働した学校教育を推進します

読み聞かせボランティアをはじめとする学校支援ボランティアなど、地域人材を講師とした教育活動の展開を図ったり、まち探検や職場体験など地域の中で教育活動を展開したりすることで、地域の方々の協力のもと、特色ある学校運営を進めます。

(1)教育委員会広報誌発行(再掲)		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	学校教育について地域全体で理解をいただくとともに、教育委員会の施策や学校の特色ある教育活動について、市民に広く周知するため、教育委員会広報誌、ビジュアル版「大和の教育」および「まなびやまと」を発行しました。また、広報誌の発行を通して保護者と連携した学校教育推進のため、学習会への参加や活動への協力を働きかけました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ビジュアル版「大和の教育」の発行(75,500部)	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回	計画:1回 実績:1回
	「まなびやまと」の発行(各75,500部)	計画:2回 実績:2回	計画:2回 実績:1回	計画:2回 実績:2回

(2)教育委員会表彰

[担当] 教育総務課

[事業内容] 青少年の健全育成や学校教育、社会教育などの分野において、長年にわたり活動いただいた功労や、他の模範となった功績をたたえ、表彰しました。



[計画と実績]

	H24	H25	H26
被表彰者数	計画:40人 実績:49人	計画:40人 実績:45人	計画:40人 実績:39人

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・地域の方に、学校での教育活動に積極的に協力していただけるよう、教育活動や学校内の情報を発信しています。

▼施策の方向4—2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます

学校・家庭・地域が、子どもを取り巻く課題を共有できる取り組みを進めます。
また、学校・家庭・地域が、大和市家庭・地域教育活性化会議など社会教育関係諸団体などの地域ネットワークへ参画し、登下校時の見守りや青少年の健全育成のための社会環境浄化活動などを行うことで、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。

(1)夏休み子どもまなびや		[担当] 指導室		
[事業内容]	夏休みに、学校や家庭とは違う環境で、地域の方と触れ合いながら、主体的に学ぶことの楽しさを実感できるよう、児童の夏休みの宿題や自由研究などへの取り組みを支援する夏休み子どもまなびやを開催しています。平成26年度は、682名の児童が参加し、地域ボランティアとして177名の方にご協力いただきました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	まなびやの開催 (コミュニティセンター)	計画:20 施設×2回 実績:20 施設×2回	計画:20 施設×2回 実績:20 施設×2回	計画:20 施設×2回 実績:20 施設×2回

(2)青少年相談・街頭補導		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	<p>悩む青少年や保護者等から相談を受け、その問題解決を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話相談:193件、来室相談:300件 ・非行防止、社会環境浄化のため、ゲームセンターや公園等を巡回し、問題行動がある青少年に対しては補導を行いました。 ・専門街頭指導員による補導実施件数:278件 ・街頭補導従事者数:延べ951人 			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	街頭補導の実施回数	計画:10回/週 実績:10回/週	計画:10回/週 実績:30回/月	計画:10回/週 実績:10回/週

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・ふれあい広場やコミセンまつりに参画することで、地域の方々と交流を深めています。
- ・児童・生徒が、地域で行われる清掃活動や美化活動などにボランティアとして積極的に参加するなど、地域の一員としての自覚を持つことにつながっています。
- ・家庭地域活性化会議やPTAと連携し、地域のパトロールに参加しています。

施策の方向4—1 地域社会と協働した学校教育を推進します				[施策の達成度] A			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の「小学校で授業を実施したゲストティーチャーの1校あたりの人数」は35.9人となりました。前年度に比べ10.9人増と大きく増加し、中間・最終目標値を達成しました。 ・専門的な知識や技術を持った地域の方々に学校支援ボランティア人材バンクに登録していただき、各校へ情報提供しています。教科学習のほか、道徳や総合的な学習の時間、人権教育や平和教育などに幅広く活用されています。特に、読書活動における読み聞かせボランティアが増加しています。 ・中学校では、キャリア教育の一環として、地域の方を招いて職業講話を実施している学校もあります。自身の体験や専門知識を基にした授業は説得力があり、生徒にとって新鮮で効果的な授業となっています。 ・教育委員会表彰式を開催し、功労者を表彰することで、教育活動への地域の理解を深めることにつながっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が実体験をしたり、専門家の話を聞いたりすることは、非常に効果的であり、重要な機会となります。今後も、より多くの機会が提供できるよう、情報収集や人材確保が求められます。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
小学校で授業を実施したゲストティーチャーの1校あたりの人数	人	24	24.6	25.0	35.9	27	30

施策の方向4—2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます	[施策の達成度] B
----------------------------------	------------

[施策の成果]

- ・夏休みを利用し、地域の方などによるボランティアの協力により、小学生を対象に学習支援をする「夏休み子どもまなびや」を市内コミセン20か所で実施しました。
- ・ゲームセンターや公園等を巡回して、問題行動がある青少年に対しては補導を行うなど街頭補導を実施したり、有害看板等の撤去活動や有害図書区分陳列等調査を行ったりすることで、非行等の防止や地域全体で子どもをはぐくむ社会環境浄化につながっています。

[今後の課題]

- ・成果指標の「ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある生徒の割合」は41.5%と、前年と同程度でした。入試制度の変更などの影響が考えられますが、学校によっては増加しているところもあり、今後は、ボランティアの募集方法や参加形態など、取り組み方を工夫するよう各学校へ発信することで、参加率の向上を図ります。
- ・「夏休み子どもまなびや」は、学習習慣の定着や学力向上の面で発展が求められています。また、「放課後寺子屋やまと」との関係を整理することも必要であるため、地域住民の参画を得て行う長期休業期間の催しの在り方について検討していきます。
- ・様々な相談に対応できる相談員等の確保や関係機関との連携強化に加え、時代に合わせた多様な相談方法についても検討する必要があります。
- ・青少年を取り巻く社会環境を改善するためには、地域の協力が不可欠です。青少年相談員を中心に、街頭補導や青少年の非行（喫煙、飲酒など）防止活動を地域全体で着実にを行うため、日頃から情報交換を行うなど、連携を密にしていける必要があります。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある生徒の割合	%	62.0	64.9	41.6	41.5	65.0	70.0

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます	[総合評価] B
-----------------------------------	----------

[基本目標4に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向でボランティアなどの協力が定着しつつあり、一定の成果が得られています。今後も様々な施策において、より多くの地域の方に協力していただくためには、双方向性の観点から、児童生徒のボランティア参加も促進することが求められます。

地域の力を生かした活動を充実させるためには、地域ボランティアや自治会などとの協力関係がより深いものとなるよう、協力を呼びかける仕組みなどを工夫するとともに、日頃からの関わりを大切にし、連携強化に一層努める必要があります。